

ごあいさつ

日頃、皆様には本組合の事業運営に特段のご支援とご協力を賜り、心より感謝と御礼を申し上げます。

本年も、当JAの経営内容を公開し組合員、利用者の皆様が安心してご利用頂けるよう、ディスクロージャー誌を作成致しましたので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況下であり、さらに、ウクライナ情勢等により世界経済に不安が広がり、原材料価格の上昇や金融資本市場の変動が生じるなど、日本経済に大きな影響を及ぼしています。また、外食需要の減少等により多くの品目が影響を受け、特に主食用米については概算金の大幅な下落や更なる作付け転換を求められるなど、厳しい状況下にあります。

こうした中、当JAにおいては、第七次中期経営計画の2年度として「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現に取り組んでまいりました。令和3年9月には新たな農業倉庫の整備として穀物乾燥調製貯蔵施設（カントリーエレベーター）が完成、稼働し、より一層の利便性向上を図り、また、令和3年4月の凍霜害への支援や米価の下落に対し対策本部を立ち上げ、営農を維持すべく行政・関係機関に積極的に働きかけを行うなど支援を行いました。

令和3年度の事業活動として、営農経済部門においては、第七次中期経営計画に基づく営農Vプラン実践の2年度として、計画の着実な実践と担い手・農業法人組織等に対する営農相談活動を展開しました。さらに世界的な需要拡大等からの肥料、原油高による生産資材の高騰に対して、肥料の銘柄集約、大型農薬規格、施設園芸セーフティーネット事業に取り組み生産資材費抑制に取り組みました。

金融共済部門では、選ばれつづける金融機関を目指し、組合員・利用者のニーズに即した事業の展開に努め、「対話による組合員・地域住民との関係強化」を基軸として金融渉外による資産形成の提案推進活動を展開しました。また、令和3年2月より三度に渡り発生した地震被害に対し、迅速な調査始動により共済金支払等において円滑な契約者対応に努めました。

管理部門では、活動を制限せざるを得ない状況の中でも、各地区の地域活性化委員会が中心となり、「小規模、時短、屋外活動」などを組み合わせながら工夫を凝らした活動を展開しました。その結果として、宮城県農業協同組合中央会主催の支店協同活動コンクールにおいて、柴田地区事業本部の活動が優良賞を受賞し、高い評価をいただきました。

令和3年度の事業成績については、組合員の皆様が積極的にJA事業を利用していただいた結果、事業利益は53百万円となり、当期の剰余金は3億94百万円、当期の未処分剰余金は12億56百万円となりました。

農業を取り巻く環境は依然として展望が見えにくい状況が続いておりますが、組合員、利用者皆様方の信頼と期待に応えられるよう役職員一丸となり、力強い農業と地域づくりに取り組んで参りますので、今後ともより一層の皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



令和4年7月

みやぎ仙南農業協同組合

代表理事組合長 舟山 健一